

進化する子育てステーション



新しい公益事業

子育てランドあべ

野口 比呂美

二 二年九月二十八日、山形市のメインストリートに「NANA BEANS」ビルがグランドオープンした。ここは二

年に百貨店「山形松坂屋」が閉店したあとの建物を再度活用したもの。一階から三階は民間のテナント、四・五・七階は山形市、六・八階は山形県が、中心市街地の活性化を図ろうと借り上げて活用しているスペースである。

「子育てランドあべ」はこのビルの五階、「高齢者交流サロン」や「やまがた伝統こけし館」と同じフロアにある。運営しているのは私たち「やまがた育児サークルランド」である。地域の育児サークルに共通の課題を解決し育児サークルのネットワークをつくらうと、平成十年三月に発足した非営利団体である。山形市近郊の二十六のサークルが登録しており、事務局スタッフはサークルOBが中心で、育児サークル支援（育児サークルリーダー研修会など）、保育サービス（保育者の派遣など）、育児情報の提供（情報紙の発行、ホームページの公開など）、女性の自立支援

（再就職応援講座、IT講習会）などの活動を行っている。

山形弁の「あべ」は「行きましよう」の意で、「子育てランドあべ」は「親子で七日町にいましよう」という意味の名前だ。また、語感からアルファベット最初のA、Bが連想され、人生において「最初」の時間である乳幼児期に、親子で仲間をつくらう、親だけでなくたくさんの大人が子育てにかかわってほしい、という願いをこめている。

主な事業は、(一)おやこ広場での「交流と情報提供事業」、(二)託児ルームでの「保育サービス事業」、(三)研修室での「教育と女性の自立支援事業」、(四)相談室での「育児相談事業」の四つの子育て支援事業である。

第一の「交流と情報提供事業（おやこ広場）」は、就学前の乳幼児（〇歳から六歳）をもつ家族が対象である。大型エアー遊具や大型ブロック、乳幼児用遊具をそろえ、お誕生会や「すくすく成長記録会（身体測定）」などの行事も行っている。また、情報コーナーには、

育児情報誌、新聞、育児などに関するチラシ、絵本、ネット上の育児情報を検索できるパソコンを備えている。

第二の「保育サービス事業」は、六カ月から就学前のお子さんを一時的に預かる一時間五百円という低料金の託児サービス。一回の利用は三時間以内とし、定員二十五人までおあずかりする。登録制で、利用日の前開館日の午後三時までに電話やカウンターで予約してもらおう。保育室は認可保育園の基準で設計されており、保育者は保育士・幼稚園教諭・教員・看護婦などの職歴を持ち、家庭での子育て経験あるスタッフなので安心して預けることができる。

第三の「教育と女性の自立支援事業」は、育児に関する講座や、子育て中のお母さんの人材育成に関する講座などの開催。「再就職応援講座」やパソコン講座などを行っている。

第四の「育児相談事業」では相談日を設けて育児などの相談を受けている。託児ルームを利用し保護者だけがじっくり相談すること



子育てステージの新しいスタイルの「あ〜べ」

もできる。

開館以来、たくさんの方々が「あ〜べ」を利用してくださっている。十一月三十日現在、登録三千六百五十人、来館者総計は一万八千三百三十一人を数えている。一日平均約百四十人が訪れていることになる。

オープンして約五カ月の間、利用者のお子さんはもちろん保護者のみなさんも良いほうに変化していく様子が見える。「おやこ広場」では知らないママ同士がお友達になるケースがたくさんあり、親子の仲間作りの場となっており、親の育児相談を受けたり、子どもたちと声をかけたりしている。また次のようなケー

スもある。「おやこ広場」によくいらしているおばあちゃんとお孫さんはこれまではあまり他のお友達とのかかわりを持つ機会がないようだった。お孫さんもそんな環境にいたためか、社会のルールが身についておらず、おばあちゃんを困らせることも多かった。「あ〜べ」に何度も遊びに来てスタッフや他の子どもたちと接することにより、精神的に大きく成長した。また、おばあちゃんの方にも、しつけの言葉かけがみられるようになっていく。

「託児ルーム」は、さまざまな目的で利用されている。「買い物」「病院（自分の通院）」が多いが、「仕事」「講座への参加」や「上のお子さんの学校・園行事への参加」のための利用もある。

Sくんのママは、出産を機にフルタイムの仕事を辞めた。仕事をしなくても時間帯が不定期なので、出産後の仕事はあきらめていたようだ。「あ〜べ」の託児室は一度登録すればそのつど電話で予約ができるため、七カ月児のころから子どもを預け、フリーランスとして仕事を再開できようになった。このほかに「職安に行く」「就職の面接に行く」などの目的で利用するケースも多く、ママの社会復帰のための応援団になっている。

「託児ルーム」を利用し、お友達同士でランチをしてきたママたちからは「子どもが生まれてからこんなにくつくり過ごせたのは初めてです」と喜んでいただいた。

また、「託児ルーム」でも子どもが成長する姿をみることもできる。二歳のAちゃんは託児ルームによく来てくれる。いままでは家中でのみ過ごしていたためか、初めのうちはあまり表情がなくスタッフの中でもちよつと

気になる子どもだった。それが今ではAちゃんに笑顔があふれるようになり、毎回楽しく過ごしていつてくれるようになった。保育スタッフもその成長ぶりには驚いている。

このようなサービスを通じて、私たちが子育て中に欲しかった「子育ての仲間作りができるサービス施設」「そこに行くことにより母親自身の生活の選択肢が広がるサービス施設」「健全な子育て環境と親の精神、自立的な女性の生き方を追求できるサービス施設」を目指していきたい。

また、山形市の中心市街地である七日町に集まるのは、独身の若者、学生、高齢者が中心であり、子育て中の世代は近所や郊外店を利用しているのが現状である。七日町に親子連れが多くなれば、市街地のソフト展開に貢献できる。非営利団体のNPOとしての私たちと、企業（商店街）や行政（山形市）が協働してまちづくりをすることによって、山形が魅力的になることを願っている。

野口 比呂美

やまがた育児サークルランド代表。平成14年6月から、山形市の補助金をうけ、「子育てランドあ〜べ」を運営。

1961年寒河江市生まれ。山形大学人文学部卒。県社会教育委員、県「NPOとの協働の指針」検討委員会委員、山形市女性センター運営委員、他。連絡先：〒990-0042 山形市七日町2-7-10 NANA-BEANS 5F 子育てランドあ〜べ TEL 023-615-1930 FAX 023-615-1933 E-mail : a-be@ikuji-land.jp http://www.yamagata-npo.ne.jp/ikuji/